京文山岳部報

No.291　　'77　1月号

〔第1111回例会〕　新春

七種山（ななくさ）　（R）

日　時　1月3日（月）　8.00 京都発の予定

コース　京都ー中国自動車道・福崎ー田口ー金剛城寺ー七種池…七種滝…七種山

1/5万図　「北条」「生野」「山崎」「竜野」

担当者　本局　宮後正樹（TEL 791ー8600）　申込み〆切 12/30（木）

備　考　マイカーで行きますので必ず連絡のこと

〔第1112回例会〕

愛宕山　（R）

日　時　1月9日（日）　9.00 清滝トンネル出口集合

担当者　本局　大槻雅弘（TEL 652）　申込み〆切 7日（金）

備　考　愛宕山初詣りに出かけます。家族連れで参加して下さい。

〔第1113回例会〕　比良

蛇谷峰　（T）

日　時　1月21日（金）　6.50 京都駅2番ホーム集合

コース　京都ー高島ー畑…ボボフダ峠…蛇谷峰901.7m…往路下山

担当者　横大路　大西純一（TEL 601ー9391）　申込み〆切19日（水）

携行品　弁当、わかん、オーバー手袋、オーバーズボン、スパッツ等の冬山装備

〔第1114回例会〕　遭難救助訓練

堂満岳　（T）

日　時　1月22日（土）～23日（日）

担当者　九条第二　石田幸次（TEL 657）　申込み〆切　7日（金）

備　考　岳連主催の遭難救助訓練に参加します。詳細打合せは集会にて

例会予告

王生そとさんご退職お祝い登山

雲　取　山

日　　時　2月6日（日）　7.30 御嶽橋東詰上る堤防集合

お知らせ　古くからの山岳部員としてご活躍下さった王生そとさんが2月17日付をもってご退職されることになりましたので、お祝い登山を計画しています。万障お繰合せの上、ご参加下さるようお願いします。

担 当 者　本局　宮後正樹（TEL 251）　申込み〆切 1月末日

新　年　会　兼　集　会

日　　時　1月18日（火）　午後6時30分から

場　　所　下鴨寮

費　　用　約2000円

申 込 み　本局　木下（TEL 297）　〆切 14日（金）

リーダー会

1月7日 ―（金）　宮後宅

蛇の足より人の足

宮　後　正　樹

猛烈寒気の吹き出しで、今冬も去る11月末から日本列島はすっぽり冬将軍におゝわれた。京滋のスキー場も、山開きやオープンを待たずに11月30日には早くも伊吹山で50cm、箱館山で70cmとスキー可能になった。北アルプスをはじめ山岳地帯は連日の猛吹雪で今冬は雪が多いようだが、くれぐれも安全登山で楽しい冬山を謳歌できるよう祈りたい。

積雪状況を知る方法として「現地の177」利用が先日新聞に照会されていたが、天気予報のほかに積雪状況などが含まれる場合があるので積雪を知りたい地方の「177番」を利用すると便利である。寒波は日本だけではなくニューヨークでは零下13度で36年ぶりの寒さとか、モントリオールでは零下24度で、気象台では30秒以上外気にふれないようにといっているという。

さて1977年、昭和52年は巳年である。ところが東京天文台編さんの「理科年表・昭和52年版」に52年度の干支を丙辰とミスして、理工科系の六法とまでいわれる出版物だけに慌てて正

誤表を発行し訂正に大わらわという騒ぎがあったが、巳年の年頭に当り巳(蛇)に関する「ことわざ」をひろって山行の処世訓を綴ってみた。

「蛇の道はへび」先ず山仲間どおしはお互いに何事も通じ合ういいものである。仲間を大切にしよう。「蛇は寸にして人を呑む」梅檀は二葉より香しと同意で山の達人は幼少から常人とは違ったところがあったのであろう。しかし一寸ほどの小さいときからでも既に何倍もの大きなものを呑む勢いを示す大蛇ほどの度胸と威勢を山に相対していつも身につけていたいものである。しかし「蛇に睨まれた蛙」で手も足も出ない悪場に出喰わすこともある。困難を乗り越えて行くところに輝かしい成功があるのである。

また「蛇に嚙まれて朽縄におじる」で一度ひどいめに遭うとそれに似たものが皆こわくなるものである。といって必要以上に臆病になることは却って危険を伴うし、そこには発展は望めない。ビビらずに勇気をもって慎重な行動が大切である。

「蛇の生殺しは人を嚙む」いい加減なシゴキは怨み、憎しみを買うものである。徹底した指導教育が望まれる所以である。

「蛇は竹の筒に入れても真直ぐにはならぬ」根性の曲ったような人間は山で鍛えるのが最もふさわしい。「蛇が蛙を呑んだよう」まさにツチノコヘビである。恰好の悪いことはよしておこう。

「蛇の足より人の足」、蛇に足があるかどうかなどを論じているよりも自分自身のことを考えるべきである。とにかくつまらない議論をやっている暇があれば先ず実行、自分の足もとに気をつけて今年も大いに山へ登ろうではないか。

〔第１１０５回例会〕

横　山　岳

大　槻　雅　弘

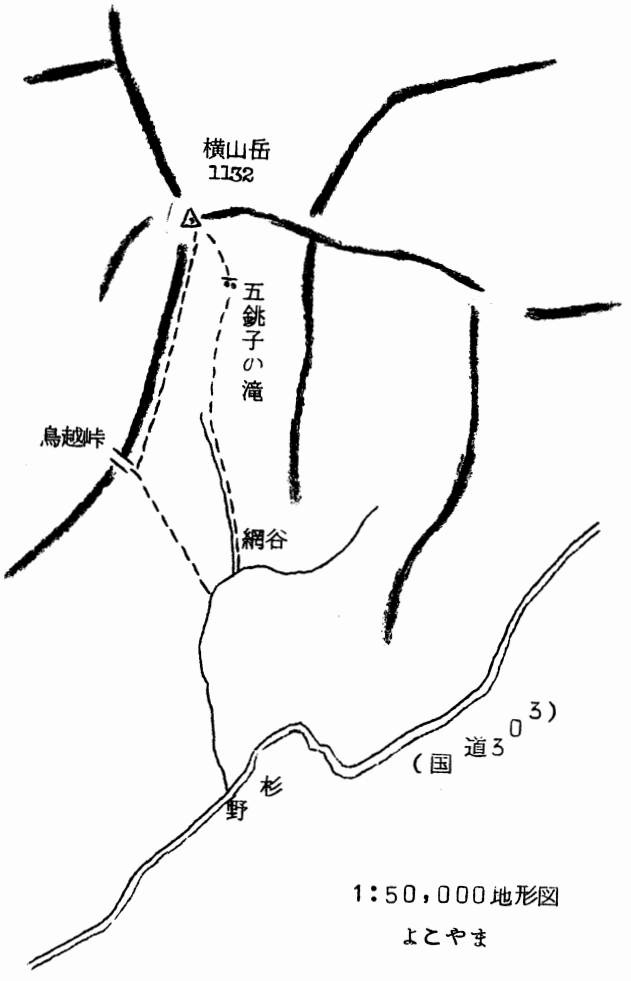
「早起は三文の得」とか言う諺がある。

現在なら三文の得になるか、物価高で何円になるか知らないがとにかく、朝早く起るということはつらく、眠むい事である。まして夏と違い１２月の朝4時では真暗である。

吉田君に迎えに来てもらって、三橋さん宅に着くがまだ明方どころか、近所は寝しずまっている。山村、牧両氏が揃い、名神インターを入ったのが5時１０分。９月に三ツ又へ行った時に今度は横山岳へ登ろうと、その時決めたメンバー山村、三橋、吉田、大槻に牧さんを加え計５名である。それも１０月の例会に出したのが延期しての山行である。

三橋さんのマイカーにお世話になり、雨の中、彦根インターから国道８号木之本を経て、山間の部落杉野へ着く。〝三文の得〟に拘る訳ではないが、雨では一文損したみたい。横山岳登山口の標識がある最後の家で、山の様子を聞く。「お早うございます。横山岳へ登りたいのですが」と我々の予定ルートを説明する。応待に出た奥さんはわからないからと、床の中の御主人が起きてきて親

切に説明してくれる。話しでは予定しているルートに道があるそうだ。地元青年団が作ったという網谷ルートを登り、下りは三高尾根のルートを計画どおり登る事にする。



礼を告げ、その家を後に5分も走ると網谷出合に出、車はここまでとする。まだ小雨は降っているが上空は雲間に青空も見えている。もう止みそうであるが、アノラック、傘の装備で出発する。京都では晩秋だがもうここでは初冬を感じさせる。道はまだ車が充分通れそうであるが、20分程で路肩がくずれ通行出来ない。車はやはり網谷出合に駐車させておいて良かった。登山道は、その道が終った所より堰提を高捲し、右岸へとつけられている。雨も上り、日が射して山がとても美しい。ずいぶん落葉しているがまだ所々、きれいな色模様を見せる山肌、それに新鮮な空気、やはり早起はいい気分だ。三文得か？　7時55分である。

正面に細い滝が見える。ガイドブックに出ていた最初の滝、経の滝だろう。出発して40分、牧さんをトップにいいペースで滝に着く。朝食がまだという牧さんは腹ごしらえ。一口にぎりめしをいたゞく。ウマイ。

滝の上部の木の小枝に白ペンキで〝経の滝〟と書かれた所を捲いて、道は急な谷筋を登っている。尾根筋を見ると霧氷がついているのが白く光っている。やがて谷が二分し急斜面にナイロンロープが張られた所を右にとって登る。もう少しジグザグに道をつけてくれればいいのにと、道があればあるで文句をいいながら登る。経の滝から35分で〝五銚子の滝〟へ出る。少し変った名のこの滝は、五本の流れ落ちる細い滝が全体としてひとつの滝を形成しているようだ。

やがて道は、谷と別れ急な尾根へと続いている。落葉を踏みながら一汗かく。時折みぞれがその落葉に、シャラシャラと音をたて降る。落葉とみぞれ、もう山は冬だ。日当りの良い斜面で一腹。木々の霧氷が解け水滴になり、それが日に照らされ水玉の花を咲かせている。そのキラキラ光った木々をとおして、遠くには竹生島、右に余呉湖、南には金糞岳、白倉、己高山と望める。

もう一頑張だと尚も直登気味の道を登る。以前武田さんがとにかく急な道を降りたという話しを聞いていたのだが、本当に一直線に道はついている。熊笹が出てきた。もう頂上も近いのだろう、三橋さんが先頭になり急ぐ。10時5分、頂上。周囲の熊笹にはうっすら雪が積り、広く開けた中に2等三角点があった。例によって万才三唱の後、早いが昼食にする。小生は初めての試として、インスタントきつねうどんをする。テルモスに用意したお湯を注ぎOKというやつだ。これから冬場のシーズンはとかく熱い物に限ると思いやってみたが上々である。余った湯を皆で回し飲みしたか、弁当箱が熱くて持てないぐらいだった。

美濃の山々の展望を満喫し、笹の雪も解けた頃南にのびている三高尾根を下る。予想していたより歩き易く、雑木林の中を一気に鳥越峠まで下る。峠からは、道も悪くなったがそれでも2時間もかゝらず林道に出た。

今日は25日、京都は〝天神さん〟の日。早く帰れば行けそうだ。時計はまだ12時45分、早々に車に乗り横山岳を後にした。京都3時25分着。

名神の車中で、山は朝早い方が良いと言う結論。早く帰り家庭サービスも出来、家で風呂上りに一杯もよし、外で飲むよりやはり〝三文の得〟になるという事だった山行。

北山の峠

津田　実

11月23日　くもり後晴

国鉄バス妙心寺6.59分上黒田行を待つ。定刻になってもなかなか来ない。二、三分早く行くことがあるので乗り遅れたのかも知れないので、若し遅れたのなら天気も悪いので取り止めようかなと思い乍ら待つこと久しやっと勇姿をあらわした。奥へ行くほど天気が悪く高雄停留所では、どしゃ降りとなる。此れはえらいことになった山どころではないわいと話していたら杉坂口付近へ来たら雨が止んだのでほっとする。愛宕道でバスを降りいよいよ轟谷へと道をとる。何時来ても静かでよい道である。（但しシーズンは若いハイカーで賑やかだが）滝に8.15分に着いた。一寸一服して滝の捲き道に取着き林を抜けると盆地状の開けた明るい処に出る。此処で山小屋でも開いたらなあーと話し乍ら少し昇ると余野の村落に出た。伏見坂は狭い道で熊笹が今朝の雨で濡れ下半身ずぶ濡れになって仕舞った。急に茶呑峠行く道に出る。道を右にコンクリートの橋を渡ると緑坂峠はすぐだ。ぐんぐんピッチを上げる。余り急ぎ過ぎて丸木橋の腐ったのに注意せず二人の重みで丸太が

震へ出した。「あっ」と思ったがどうすることも出来ず同行二人仲良く転落した。此の道はハイカーが多く通る道と聞いているので此のざまを見られてはと一目散に逃げ出した。愚図ついてなくて好かった案のじょう親子連れのハイカーと遭う。まったくグットタイミングであった。もう少しで醜体を見られるところだ。二人共物も云わずに峠への道を急ぐ。縁坂峠、淋しい峠である。此処にまつられている地蔵さんが口をきいたら古い話を聞かして呉れるであろうが、真弓を過ぎ持越峠を目指しなおも道を急ぐ。とたん立派な自動車道が峠へとついている此れ幸いとのぼり峠へ着いた。着くことは着いたが永室への道が判らない雲ケ畑へも真弓へにも旧道があるのに。なかばやけになり昼食とする。11.25分頃　12.00時きっかりに出発。藪の中を強引に進むうちにやっと道にたどりつく。なんと道に併行して歩いていたのだ。余りの馬鹿らしさに三角点（566）で小休止とする。今朝の悪天候は忘れたような晴天で夏のようだ。此処迄来れば安心だ。記念写真を取る息子が釈迦谷山と書いた板切れを見付けて来たが、此の三角点は無名のはづなのに？と地図を見る。釈迦谷山とはゴルフ場の近辺に書いてある。何んのことやら判らずに出発。尾根道をどんどん進んで行くと急に開けた場所に出る。下に立派？な道があり弁当空が散らんしている。待てよ、此んな所があったかな？又もや地図の世話になる。五万とは便利なもので忽ち道が判然とする。こう書くと部員諸候はなる程と思はれるであろうが此れは嘘で必死になって探したのである。やっとダラノ坂のうえに来た。10分間休憩、此の坂は滑るので困るとこぼしていると後から来た村人から笑はれる。永室迄来ると老若男女ハイカーで賑わう。釈迦谷口バス停に15.28着。本日の判ったようで判らんたよりない山行は終った。

〔同行者〕　息子と2人

コース　　国鉄バス愛宕道…滝又滝…余野…伏見坂…大森西町…縁坂峠…真弓…持越峠…ダラノ坂…永室…釈迦谷口（市バス帰宅）　　所要時間　約7.5時間

〔第1106回例会〕

廃村八丁・西谷山 △881

五条　翠峰

11月28日三条京阪7時になっても誰も来なく、一人で広河原行京都バスに大勢のハイカー達と同乗、9時10分菅原下車。仏谷をつめ、登山口より急坂を登る。段の峠の直下は伐採で明るくなり登路が峠へ直接突上げるようにつけかえられていた。峠で一服していると若者か一人手鞄を提げて上って来た。聞くと八丁へ行くとかで、始めてなのでついてくる。

白頃峠で地図を見せ、八丁への道や形部滝ルートを説明し、西谷をつめて△881mに登る計画を告げると連れて行って欲しいとのことで、西谷の山道を遡る。正面の滝は二段になってその右岸を1/3巻いて道がつけてあり、次の二又迄明瞭であったが、二又で右俣谷に道かあり真直ぐの左俣には道はなくなっていた。正面の尾根に取付き、若者の荷物を私のリュックに収め、予備の手袋

を貸してやった。左俣の左岸を1/3 巻いて進むと道らしいのが見えたので谷に下って踏跡を辿る。又次の二又に当り、真中の尾根に取付き雑木の疎林を登って稜線の1ピークに達した。どうも△の東らしいが、念の為西のピークを往復して確めた。西のピークは南へ曲りずっと切開が続いていた。又東に佐々里ー京都線の車道が見えた。又元へ戻って西のピークを目指し、北面は一面の伐採跡で、八丁川が丸見えで遠く風越峠の稜線が眺められた。切開を辿って林中に苔むした二等三角点を見つけ二人で万才三称。若者は名古屋の出で八丁へ写生に来たが、三時のバスで菅原から帰るとのことで、弁当も半分で、廃村へ尾根筋の切開を辿った。品谷峠の稜線と分れて支尾根の切開きを下って季谷へ下り八丁へ。八丁で若者と分れ弁当を食べてから出発。卒塔婆峠を越え小塩上の町に行ったが、時間が早いので、△677mの登路を開いたが、小塩の民宿の少し上流の小谷から谷をつめて尾根に出ると道があるとのことで、南に入る小谷をつめて二又の小屋でコーヒーを沸かして一服した後右俣をつめ、植林中の支尾根に取付いたが、踏跡があり急峻だったが大した藪はなく尾根に出ると道があり、5分程南へ登ると真新しい三等三角点があり、対空標に馬場Ⅱと書いてあった。写真をとりすぐ引返し、左俣の上流へ下って左俣谷に下り小屋を経て小塩へ、バスを待つ間歩いて田中町から国鉄バスで周山経由帰京した。

〔コース・タイム〕　7.10　三京　9.10　菅原　9.45～9.55段の峠　10.45西谷分岐　11.30西のピーク　11.50～12.00西谷山881m　12.30～12.10　八丁　13.10～13.15シトバ峠　13.40峠下　14.30小塩上の町14.45～14.55クラ谷二又小屋　15.50△677m馬場山　16.18～16.20　二又小屋　16.40～17.16小塩上の町　17.40～18.25周山　19.??

妙心寺

小塩民宿　1泊三食付3,000.ー　素泊2人4,000.ー

1人増毎1,000.ー

国鉄バス時間　小塩上の町発　周山行

午後のみ　13.16（土曜のみ運行）　15.11　17.16

（土曜運休）

盆　天

伊　藤　潤　治

大垣の高木泰夫岳兄からもらった「登頂紀行」によると、その山は「大洞山といっても御存知の方は少ないようである。西美濃のタンボ同様一等三角点でありながら五万図にも山名が出てない程不遇の山である。この山に登ったのは、知る限りでは京都の翠峰さんぐらいのものではないか。ー（後日この原稿は『奥美濃、山葵会。1975』へ収録）」こんな名誉の辞をちょうだいできた山で

ある。この名文（高木岳兄）の迫力と相俟って、大洞山への登熱が高まったのは勿論である。いざせっかくの友情にむくわねばと、１９７２年１１月２２日、岐阜県郡上郡和良村鹿倉へでかけていった。けれど予期しない寒波の急襲があって、淡化粧をほどこした山村には風花が舞っていた。

御坊（おんぼう）川の大月橋を渡るとカワラ林道になる。雪の林道には早やばやと足形が入っていた。その足跡をしばらく追う。白銀が分厚く披う天地の景は荘厳であったが、所詮この分では登行を断念、この日は帰った。

この折鹿倉の里では、大洞山の山名を知らなかった。おかしな具合であると思っていると、やがてそれなら「赤岩」じゃろーの答があった。なぜ「赤岩」というのか解説はもらえなかったが、「赤岩」とよべる顕著な物の故だと思った。またこの「赤岩」をきき、必然的な疑問「彼方（八幡町）の山名は如何ー」を抱いた。だがすぐ、あちら側は大洞山と同名の谷大洞が地形図（下呂）に出ている。これが大洞山であるという動かぬ証しであると思い疑念は消散したのであった。

しかし大洞登山は積雪のため、やむを得ず融雪後になる。するとここに空間ができ、鹿倉で不明の「赤岩」を八幡町へ当ってはと考えている間に引合いに出ている「西美濃のタンポ。　ー（高木岳兄紀行文）」の別称たちに気がついた。

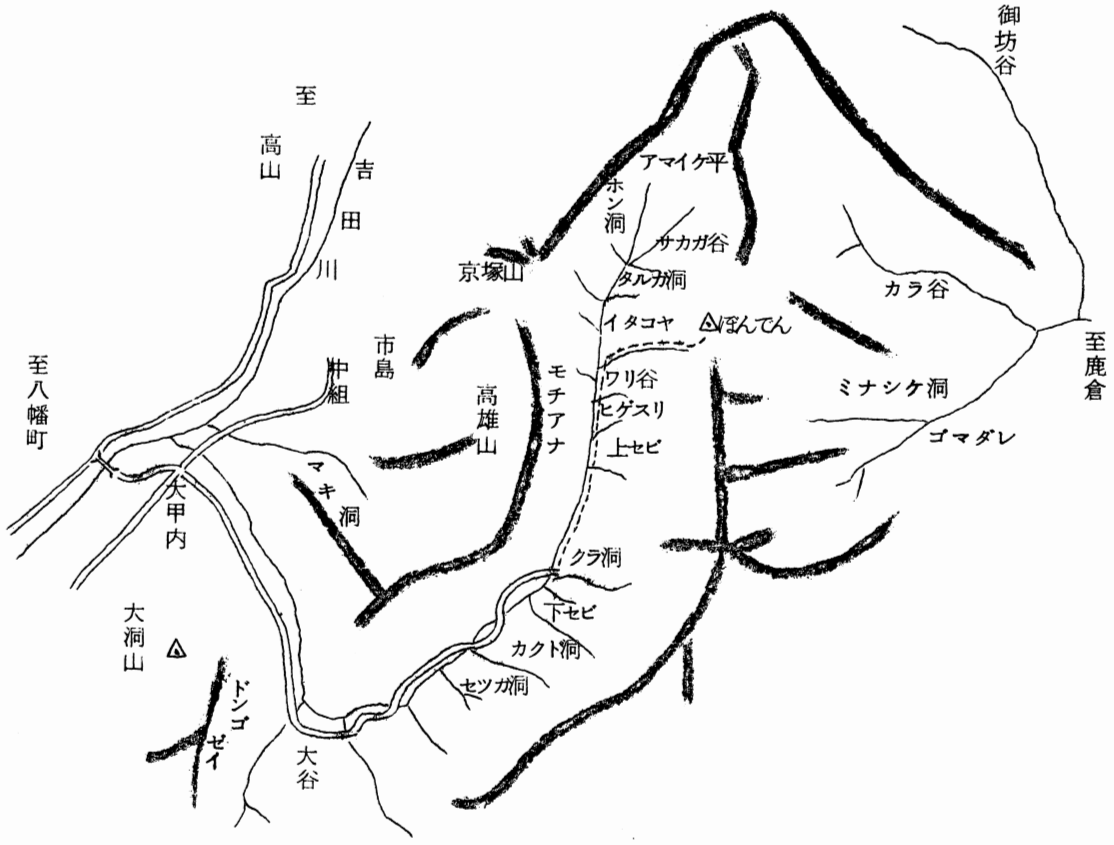
先づ岐阜の後藤芳雄先輩「奥美濃　第３９号（摺鉢山）」によると、「吉エ門の頭ー」であるし、次いで大垣の藤井茂雄岳兄「岳友　第１２号　４４頁」によれば、「かつら洞山」又は「将棋の頭」とある。なお「タンポ」（谷汲５万図　△1065.8）とは、揖斐郡久瀬村小津での名称（用字＝田穂・田保）である。これだけ山名が拾えるタンポを、地形図（谷汲）はなぜか山名を省略した。

大洞山の場合でもタンポ同様に地形図は山名をなおざりにしているのだろうか。たとえそうであっても大洞山の山名に満足しているため甚だ関心はうすい。だが「赤岩」のいわれだけはどうにも気に掛ってしようがなかった。やっとの末、とうとう八幡町へ「赤岩」を問い合す。この物好き行為はやがて、劇的な結果を招来させた。八幡町からの返信は出来ている大洞山を積木のように崩した。一等三角点のある山は大洞山（赤岩は不明）でなく盆天（ぼんでん）という。盆天の訳は「明治初期に測量が行われた際この山が基点となり、それ故「基点（ぼんでん）ー」の註（きわめて難解）があった。八幡町から標石が上っている筈だが、登山道と銘うてるものは八幡町にもない。けれど頂上近くまで行けそうな二本があって、一本は古い炭焼道とのこと。近頃この「炭焼道」は耳にできない言葉となってしまったので、なつかしさで胸おどり追憶が走った。

あの頃は行動自体に無理はあったが、雨や雪や天候の急変に遭ったり、迷い込んで道を失い進退ままにならなかったり、行き暮れて疲労困憊したり等、その受難の都度大体運良く炭焼さんと出合い事なきを得たものであった。また私が藪山通いを苦にしない質であるのも一つには炭焼さんが稼業柄「藪」を縦横に馳け歩く。その行動から多くを学びとった「たまもの」でもある。しかし時流がこの炭焼さん達を山から去らしめて、もう炭焼さんの姿は山にない。やがて炭焼道は消えうせてしまうかも知れない。

便りには「炭焼」は既に途断えて１５・６年経ち、荒れ放題の道は随分難儀が多かろうと案じてある。だが私はこの古い炭焼道をどうしても味わってみたくなった。

１９７５年１１月３日朝、八幡町大田内（おしたない）から約５粁。大洞林道の大洞橋（男柱の銘は大洞橋だが地元ではクラ洞橋というらしい）で左岸に渡り８時半頃駐車する。いよいよ炭焼の古道にあこがれて訪れたが、果たして「ただ大洞川からとのみで所在の知れぬ。」求める道にうまくのれるのだろうか。装束をととのえ植林を抜けると、まばゆく陽差す雑草の原がうれしなみだのような露をキラつかせて迎え、背高ノッポのぜたちが寄りかかり惜気のう薮時雨を浴びせてきた。



息をのみ肩をすくめて冷たくぬれたが爽快である。なぜ山に入るところも、殊勝らしき心根になるものだろう。

雑草はづれのクラ洞は細流の谷だか、巾広く堀り「えぐれ」て出水が相当狂奔するらしい。クラ洞を渡ると道は意外な幅員であり、林道がまだ先へつづくようだ。花崗岩といちびりたわむる大洞本流の軽妙な調子にうかれて進むと、緑したたり「これで包んだ（ちまき）ならさぞ美味しかろう」そんな奇麗な笹葉の繁みがつづくが、ちょいちょいと酔どれの態になり道を塞いでいた。

白砂の小さな岸が顔を出す。そこは転石が対岸を結び地形図に照らすと点線路が引かれている辺りのようであった。林道が電光形に屈折のところでは、三嶺（１８９３m　川口５万図）の折り見て

知った熊を捕る鉄檻が植林の中にすえてあった。熊に対する注意は全然きかなかったか、わなの仕掛けが必要な程熊は生息するらしい。出喰したら「どうして呉れようぞ（毛皮を脱がし胴にしてやろう）出来たら山賊の親方に着せる位いの奴。」まあ一想像はなるべく勇ましい方がたのしい。

道が大洞谷を背にして細まり杉のせまい木立の間を上るようになる。そろそろ炭焼の道にかかって藪の歓迎がはじまるかとみえたが、それはしばらくで終り。大洞の本流に勝る貫録を備えた「ワリ谷」の右岸に出た。両岸辺の木立は林とならんでいたか、谷は水枯れして岩石の白さ明るく静かな景であった。右岸へ移ると植林の鮮やかな緑から、紅葉に彩られ秋色華やかな斜面へジグザグを描いて登った。足によくなじみ快いこの道は、情報とはまるで違う。行手をはばむ者は蜘蛛の巣一つない。ジグザグ登りを終って間もなく豊かな水が走る勝景の岸辺につく。紺青に澄んだ高い空には木の葉が舞い小鳥の美声がとび交い、地には虫がそびえ滝の蛮歌がとどろき「淡く或いは濃く錦の黄葉の艶。」これが何と今しがた別れてきたワリ谷上流の奇観である。飛沫を浴び変化に従っていくと、渓声はいつしか静粛になって、やがてか細く分流し道から遠のいていった。

道が「かっての炭焼道ー」らしくなると俄に灌木疎林の急登となり、あっという間もあらず頂上に達した。一と抱覚悟で訪ねた炭焼道であったが、夢のような（知られざる）道があって苦もなう登達できた。めったに無い果報といっていい。うかれて私たち（松浦勇次君と）は、一等の標石。老朽のヤグラ、天測点をなでまわして登頂を慶び清酌をにぎやかに捧げた。

大洞山ときいていたのに、赤岩だとか、盆天であるという。では大洞山はどこで使うのか、炭焼道の所在等後日「点の記」によって解けた。参考までに関係部分の抜粋を行う。「点の名称（大洞山）」ー「点の属する網（美信三角網）（本点）」ー「地名　地種　通称　所有主の明細（岐阜県美濃国郡上郡市島村字大洞山林２７番内　全所中組所有地）」ー「観測シ得ル方向（本点）　御岳山　恵那山　尾本宮山　能郷白山　ー（補点）　久田見山　高賀山　兎馬場　五善山　三階山　大日ケ岳。」ー　「撰定年月日　（明治２６年１１月２０日）」　ー　「点ニ至ル順路　其険夷　町村ヨリノ路程（郡上郡八幡町ヨリ飛騨国高山町ニ至ルノ車道一里ニシテ橋梁アリ之ヲ渡リ川ニ沿登ルコト凡十八丁（軽量ノ荷車ヲ通ズ）市島村ニ至ル夫ヨリ測量点迄ニ里）」　ー　「通路、（市島村ヨリ凡一里許ハ炭焚ノ新通路アリ夫ヨリ本点迄ハナシ仍テ最極ノ炭小屋ヨリ頂上迄通路ヲ開造シアルベシ又大洞ノ本谷ヨリ炭小屋迄ハ本年洪水ノ為破壊多シ是亦改修アルベシ）」　ー　以上によって「大洞」が地名であり点名でもあること。また私たちのルートがほぼ標石の上った１２０年前の炭焼道らしいことが分った。

八幡町では百も承知の「盆天」であったが、当時は消化不良のままであった。大田内で道をきいた時うっかり大洞山の名が出た。すぐ訂正して恰好はつけたか、やはり（△１０３４．６）は「盆天」といわないかぎり通じない。ここ（大田内）の大洞山は（△６３２．９）であった。それにしても地名、点名が重なり、山名も本命であるべき大洞を無視する八幡町とは不思議な所である。

盆天は「基点＝盆天」の解釈につとめたが、語意をくめず匙を投げて忘れかけていたが、この程「登山講社（山と渓谷社、１９４３刊）」から「サンボーテン（参謀点）である。ー　陸地測量部の三角点標石を甲斐国都留郡の山民はかく呼んでいる。また単にボンテンともテンマル、切石などい

ろいろ面白い呼名がある。（第五巻　P142）　ー」　ようやく納得のいく答えを引出した。当初に告げられていた「基点＝盆天　は（基準点の略と俗称の意）」を長い間気付けなかった点は恥かしいが、とにかく理解にこぎつけられて欣快である。

盆天の別名、参謀点は傑作と思った。私たちの若い頃地形図のことを「参謀本部の地図と言うている。要するにそれは地形図の発行元「参謀総長を部長とした陸地測量部（明治２１年設立）が参謀本部内」をさす名であると同時に、参謀本部を「尊厳と信頼の象徴視」の称でもあった。従って参謀点（盆天も）は「敬称」という事である。

ついでながら都留郡で「参謀点らしい山」を調べてみた。小金沢「黒岳（△1988）ー丹波」御坂「黒岳（△1793）ー都留」「御正体山（1682）ー山中湖」だが何れも補点である。

ところでわが盆天生い立ちの模様と、私たち山登りの者が三角点の確認によって登頂達成としている点と、実に一脈相通じて愉快のかぎり、またなじみ辛かった盆天だが近頃声に出して呼んでみたら、打ち鳴らす祭太鼓のような響き。流石に民謡の里、八幡町の言語は力強くておまけに山男向きであると惚れこむに至った。

なお、盆天以前の山名は、と　青木源祐老（山林管理者）に、食い下ったが不詳であった。所要時間「往（２時間４０分）」。「復（１時間４０分）」。相棒　松浦勇次。

高木泰夫様

どうも稿末の御挨拶になりましたが。折角のご友情、に報わんとしていたのが、以上の始末です。つきましては、この拙稿。「貴岳兄ならびに大垣の諸岳兄」と「京都の摩峰さん」たち。先縦者であらせられる「皆様方」から、盆天をご承認たまわりたく念願のものです。

不充分ですが、盆天にお力添下さい。随分な日時を経ていますが、これをもって、登山報告にかえます。　昭和５１年　師走１７日　　合　掌

愛　宕　山

畑　　照　人

第２７回　51.11.25　晴

１ケ月と１週間目の山行きである。家庭の事情で止むなく御無沙汰した次第である。もう紅葉の季節は済んでしまった。清滝川畔は一寸盛りを過ぎたが、まだ風情は素晴らしいものである。蜂ケ岡中学校の全校登山日の行事と行きあい、山は若い子供の声で賑やかである。近頃の中学生の身体は大きくなったもんだと感心する立派な堂々たる者もいた。大いに山へ登り身心共に鍛練されたいと思う。上り２時間、下り1.5時間のいつものペースで無事参拝を済ます。大いに気分よろしい。これで脚の夜泣きも少しは治まるであろう。当初の計画では今頃、３０回を越している筈であるが何事も狂い安い事態が発生するのは止むを得ない。無理すれば、後々に大いに差支えるかも知れないので辛棒しよう。孫のお守り袋を受けて帰る。（７人目の女の子です）　　気温３°　山

保色山　友よ、許せ

伊藤潤治

玉岡憲明氏から、16日午后電話「大又林道の折部に物置小屋がある。登路はそこが最善。（彼はゲジヨ、△927.2で18日泊り、19日保色を付合う）」があった。

彼の指定した地点に着、その道を辿ると、推奨通り頂上に達した。だが既に先着かこの日の初踏頂を奪っていた。接待の方達とわかったが、歓迎なら林道から一緒に歩いてしかった。昨日から遠路この処女峰を楽しみに来た身には空しかった。お顔ぶれは、小林扁泰氏（亀の子会）。中前道康氏、余志子夫人、西加代、竹本公子両嬢である。考えたら私ども一行予定を30分遅く発ち、午垂こそしないか水準点で道草を食った兎であってみれば所栓、亀さん達にはかなわなかったと諦めがつく。まだ到着せぬ玉岡君という人は、総門山で意表をつかれてから宮本武蔵のようなと思う。しかし姓名判断では、富貴の星に包まれ温和の人柄でもある。でも待たす事小半刻、あらぬ所からにこやかな二体（玉岡、樋口）がでてきた。案の定、武蔵流ではないか。だが飛でもない悪戯坊主だ。先程二人を案じ探しに下った。それへの迎えがまた要る。怪しからんとは思ったが天衣無縫（二人はしたり顔のさま）、あほらしゆうなって笑うしかなかった。

この山を選んだ経緯の一に、保色とは「色を保つ（若さを保つ」語呂のよさがあった。＜吠えろ＞と勇ましくきき粉う語呂でもある。地形図に山名がのり、登路のわかっている場合「点の記」までは贅沢だが、「大又測站、所在　三重県紀伊国南牟婁郡飛鳥村大字大又字滝谷　俗称シダラ。順路　大字大又ヨリ山路一里強、案内者ヲ大又ニテ傭フベシ」抄録したのは俗称シダラに興味が湧いたからで、「平安時代、民間で信仰した神。疫病の流行をまぬがれるために祈った設楽神、神事に手を叩いてうたう（しだら歌）一広辞苑。」保色山の俗称が神に結びつくか否かは後日にゆだね、ここではあの日「〝一月は大蛇峰で酒がのめるよ。皆揃って愉しく酒がのめるよ〟」これは「しだら（と気がついていた）」でもあった（諸氏のせっかくのお計い）思い出して実にうれしい。また今日は「言った事、行った事か次の縁をつくる。そこに自身の内容づくりか必要なのだ。（妙心寺総門　偈）」と出会って自戒もした。けれど（友情をもてあそび、落伍者を置去る）そんな体制を僕の信念は許さなくなっている。だから不誠実を容認せぬ（参加辞退）であり、僕なりの友情をもったささやかな敬遠は自然の姿と思う。どうか老輩の純情を許してほしい。昨秋のうつ懐以来、今日まで数多の岳友の期待と友情にそむき随分迷惑をかけてきた。振返るとわれながらあきれる傲慢深くお詫びしたい。人さまには（清濁併せ呑む）をすすめても、己の事になるとまるで駄目、どうかご寛怒を乞う。

昭和五十一年龍暮二十八日

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1105	湖北 横山岳	11月21日	晴	本局 大槻 雅弘	山村 敏郎 牧 定夫 三橋 勉 吉田 武	最初はしぐれで困ったが、よいルートがあり、頂上にはあわ雪もあり天候もよくなり琵琶湖がよく見えた。詳細別稿報告
1106	廃村八丁 西谷山	11月28日		五条 坂井 久光		別稿報告
1107	虎御前山 と臥竜山	12月7日	晴	横大路 田中 忠久		虎御前山＝せせらぎ長者が蛇の化身である虎御前をめとって云々という伝説が伝わっている。信長の小谷城攻めの際、砦が築かれた。尾根伝いに、蜂屋頼隆、丹羽長秀、堀秀政、滝川一益、織田信長、木下秀吉等の陣地跡を示す立派な石の標柱が建っている。三角点標石は無線中継所の北側にあった。三角点から最高点までは良い尾根道である。すっかり落葉した木立を透して見る湖北の山や村は美しかった。　京都6.51－米原8.02～8.05－虎姫8.30…虎御前山蜂屋頼隆陣地跡9.00～9.10…△203（無線中継所）9.25…最高点（木下秀吉陣地跡）9.35～9.50…虎姫10.20 臥竜山＝北陸線の車窓から伊吹山を見るとき、その手前に低く這っている山が、臥竜山である。△312のある山頂は歴史的に名高い横山城跡で北の方に本城のあった小谷山を望み、東は伊吹山と相対している。浅井氏の最も重要な出城であったが、織田方に占領され、木下藤吉郎が守っていたことは太閤記などでご存知の方も多いことだろう。ベンチなども置いてあり、良い展望台である。北陸の山の行き帰りに時間があれば一度は立ち寄られることをお勧めしたい。臥竜山の稜線伝いに高圧線が架設されてあり、その巡視路を横山ピクニック道として利用されている。その道は最高点322mを過ぎるまで、稜線上にあったが、最高点を過ぎると右（東）の枝尾根へ下って行くので、その地点から△282までヤブコギをした。△282は二等三角点で新しいやぐらが立っていた。△282から再び道があり南鳥羽上へ下った。山は低かったが、天候に恵まれ、展望もよく、単独行ながらそれはそれなりに楽しかった。　1／5万図「長浜」 長浜10.30－石田10.50…堀部11.05…稜線11.35…△312m 11.50～12.20…鐘つき堂12.25…最高点322m 13.00…ヤブこぎ（道は右へ下る）13.15…鉢部（200m）…△282m 14.05～14.20…南鳥羽上14.35…田村（国道8号線）15.40～15.47－米原16.00～16.15－京都17.26

部員動静

〔異　動〕　西賀茂へ　渡辺智生　　烏丸計算センターへ　坂井久光
三　哲へ　山田精一

雑　報

12月集会報告

12月15日　下鴨寮

出席者　本　局　宮後、武田、大槻、三橋、岡田
梅　津　吉田
横大路　田中　　計　7名

南紀の山行と納山祭の打合せを行なった。

部費受領

51年度　前後期
市役所　松村勝義
九条第二　鷲見敏一
梅　津　蛭子野俊夫、横田義一、塚木敏夫、吉田　武、徳野　治、徳田真三、入江健次郎、中島悠紀夫
烏　丸　北林修一、今井武夫、塩野昭三郎

50年度前後期
市役所　松村勝義

52年度前後期
烏　丸　尾崎重夫、道端　清

みんな知っている
古くからの厚生会特約店
野球用具　硬式・軟式専門店
ゴルフ初心者向クラブ沢山
ありまず　特に偶数クラブOK
以上の商品なんでもOK
購買証御利用下さい
月賦可　電話にて御注文下さい
KK西沢スポーツ
中・釜座御池下
(221)　5739

真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい
確信ある用具を
確信ある価格で・・・・
KOJITU
好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL241−1731

京都最高のアクアラング用品専門店

- ウエットスーツ製造直売
- 潜水器具特別割引販売
- 現役プロダイバーと全日本潜水連盟公認指導員による
  安全確実な潜水指導　（毎週木曜　夜7時ヨリ）

ダイビングプロショップ
エリート

スキューバプロ（米）	京都総代理店
スキューバアポロ	京都総発売元
AMF ボイト（米）	京都総代理店
テクニサブ（伊）	京都総代理店

603　京都市北区堀川通北大路上ル東側　　TEL 075 (492) 8450

昭和52年 1 月 1 日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局 内　　**京交山岳部**

HIKE & CAMP

御来店ありがとうございます
山とスキー
そして海の レジャー スポーツ ショップ
コラン
中・二条通河原町西 TEL 231—1208

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801—5331 (代)

名古屋営業所
名古屋市西区児玉町7—30
TEL 521—7541代～4

HoRiKe KYoTo まかせて下さい…ネ
山とスキー
のことなら……
☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具〝ゼヒ〟御相談下さい
☆友の会会員募集中(毎月1000円)
山とスキーの専門店
ホリイケ
河原町店 上・河原町通丸太町東入
烏丸店 中・烏丸丸太町南下ル東側

テニス用品
スキー用品
山用品
交通局の皆さん
とりあえず 京菱へ
満足のいくようにします
京菱運動具店
下・大宮松原上ル
TEL 801—1331

PRO SHOP
山とスキーチロル
輸入品とオリジナルの店
AM 12.00～PM 9.00 三条御幸町下
定休日 月曜日 (221)6186

山を美しく

山のごみは

各自持って帰りましょう